2021 年 3 月 14 日(日)14:40～ まほろん 第 7 回文化財講演会

中世のムラ ―北と南から―

福島県文化センター 飯村 均

はじめに（図 1）

まほろんの初代館長である藤本強氏は、「もう二つの日本文化」として「北の文化」と「南の文化」の理解の重要性を提唱し、「中の文化」を中心としたこれまでの日本史に一石を投じた(藤本 1988)。

北海道の擦文文化期・アイヌ文化期や、南島の貝塚時代・グスク時代は、文字史料が極めて少ないことは周知のことであり、その歴史を解明するために考古学の果たす役割は大きいと、私は考えている。

そこで、「中の文化」で「中世」と呼ばれる時代の、「北の文化」「南の文化」の地域における、「ムラ」＝「村・村落・集落・村落共同体・屋敷・屋地など」と呼ばれる遺跡を紹介し、その実像を考えてみたい。

1 「北の文化」のムラ（図3～8）

北海道勇払郡厚真町 厚幌ダム建設関連遺跡群

2 「南の文化」のムラ（図2・図9～14）

沖縄県八重山郡竹富町 竹富島クマーラ・ハナスク遺跡、新里村遺跡

沖縄県八重山郡竹富町 波照間島下田原城・マシュク遺跡

沖縄県石垣市 石垣島フルストバル遺跡

3 「中の文化」と比較して（図 15～17）

新潟市馬場屋敷遺跡下層
都市・鎌倉
『陸奥国骨寺村絵図』

引用文献

財団法人アイヌ文化振興・推進機構ほか 2001『よみがえる北の中・近世　掘り出されたアイヌ文化』

厚真シンポジウム実行委員会他 2015『厚真シンポジウム　遺跡が語るアイヌ文化の成立―11～14 世紀の北海道と本州島』

天方博章・乾哲也 2013『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡―厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5－』厚真町教育委員会

天方博章・乾哲也・小野哲也 2011『オニキシベ2遺跡―厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4―』厚真町教育委員会

飯村均 2009『中世奥羽のムラとマチ　考古学が描く列島史』東京大学出版会

飯村均 2014「中世のムラ―北から―」藤原良章編『中世人の軌跡を歩く』高志書院

飯村均 2015a『中世奥羽の考古学』高志書院

飯村均 2015b「五　遺跡からみる中世前期東北の社会」七海雅人編『東北の中世史　2　鎌倉幕府と東北』吉川弘文館

飯村均 2017「ムラが消えた―ムラ研究の可能性―」『考古学と中世史研究 13　遺跡に読む中世』高志書院

飯村均 2018「東北地方の物流と移動」木村茂光・湯浅治久編『生活と文化の歴史 10　旅と移動―人流と物流の諸相』竹林舎

飯村均 2019「やきものから見える価値観―北から―」『貿易陶磁研究』№39 日本貿易陶磁研究会

一関市博物館 2008『中世荘園骨寺村』

乾哲也・小野哲也 2007『上幌内モイ遺跡(2)―厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2－』厚真町教育委員会

内田順子 2020『映し出されたアイヌ文化　英国人医師マンローの伝えた映像』吉川弘文館

工藤武・大石直正ほか 2004『骨寺村荘園遺跡』一関市教育委員会

黒田日出男 1996「特論②網代壁・板壁・土壁　町屋イメージの変貌」『絵巻物に建築を読む』東京大学出版

小野正敏ほか 1999『村が語る沖縄の歴史―歴博フォーラム「再発見・八重山の村」の記録』新人物往来社

小野正敏編集代表 2001『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会

川上貞雄ほか 1983『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』新潟県白根市教育委員会

斎木秀雄 1991「板壁掘立柱建物跡の提唱」『中世都市研究』第1号中世都市研究会

斎木秀雄ほか 1993『神奈川県・鎌倉市　佐助ヶ谷遺跡』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団

玉井哲雄ほか 2004『日本列島南北端の住居形成過程に課する学際的研究　2001 年度～2003 年度科学研究費補助金（基盤研究(A)(1)）研究成果報告書』研究代表玉井哲雄(千葉大学工学部教授)

藤本強 1988『もう二つの日本文化　北海道と南島の文化』東京大学出版会

村木二郎ほか 2020『国立歴史民俗博物館「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美から見た琉球―」遺跡から見た琉球列島のグスク時代　資料集』村木二郎(プロジェクト代表)

	北海道	南島	本州・四国・九州
前1000	縄文文化	貝塚時代前期の文化（縄文文化）	縄文文化
前500			……
		……	弥生文化
1	……		……
500	続縄文文化	貝塚時代後期の文化	古墳文化
	……		奈良・平安時代
1000	擦文文化（オホーツク文化）	……	
	……		鎌倉・室町時代
1500	アイヌ文化（内耳土器の時代、チャシの時代）	グスク時代	
			江戸時代

表1 「北（北海道）の文化」，「中（本州・四国・九州）の文化」，「南（南島）の文化」対照表*

図1 「北の文化」「中の文化」「南の文化」対照表（藤本 1988）

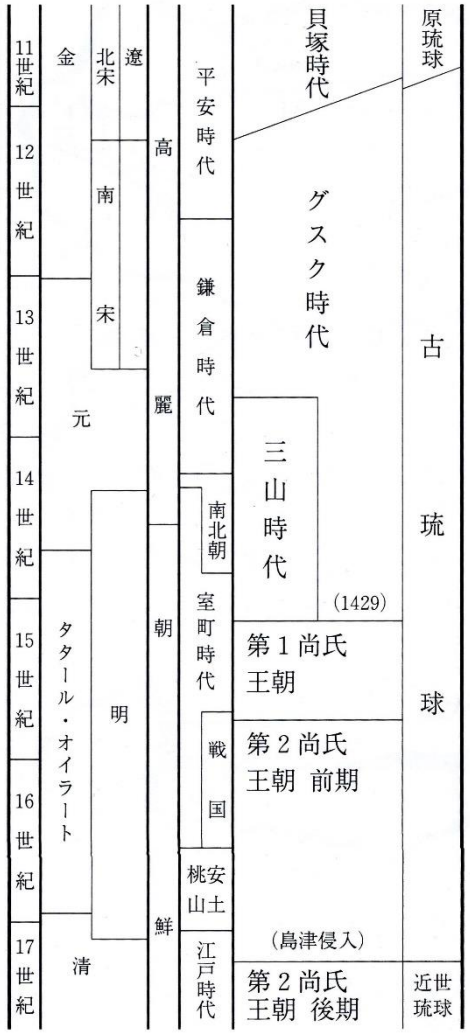


図2 琉球関係年表（小野 2001）

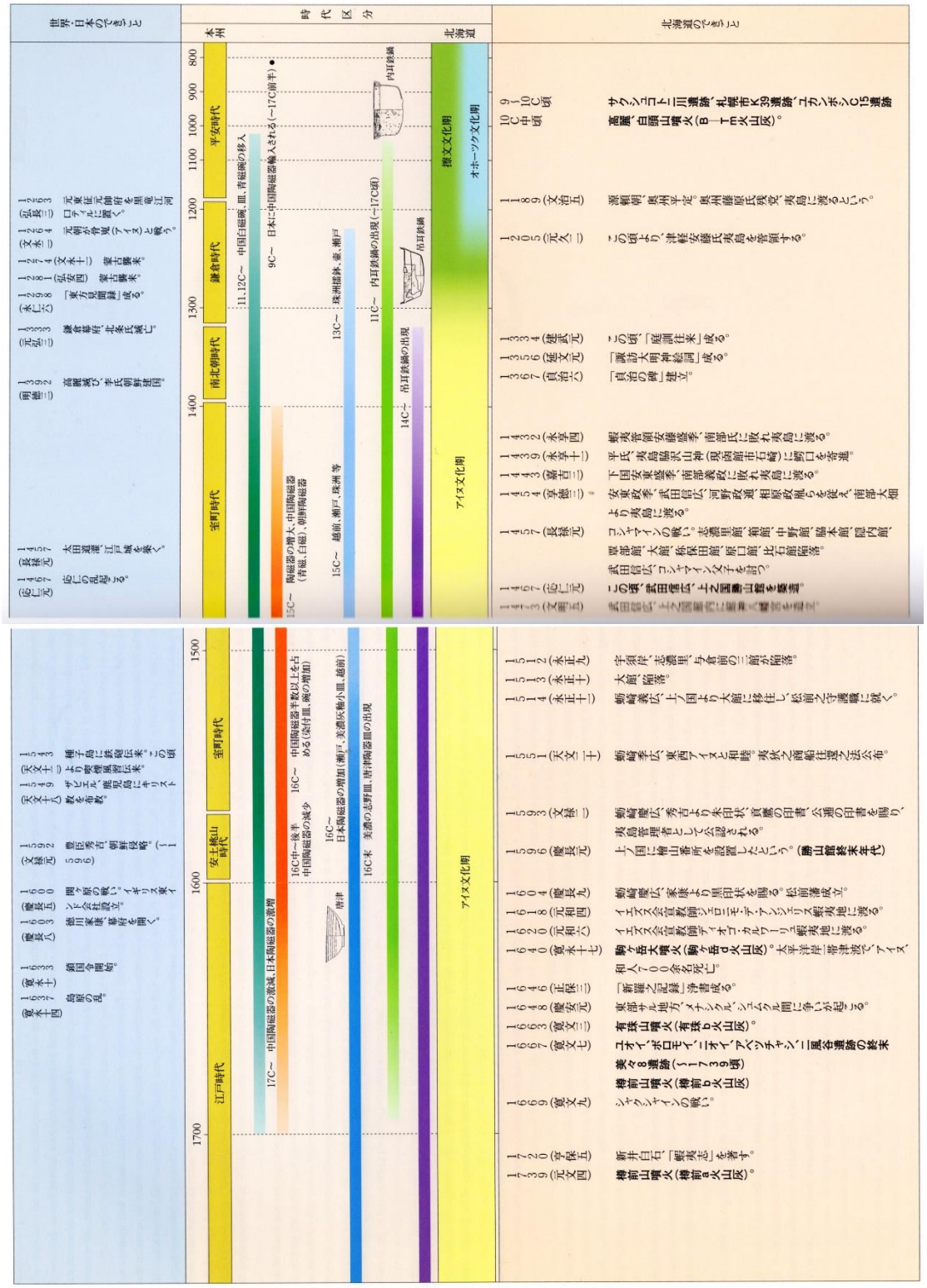
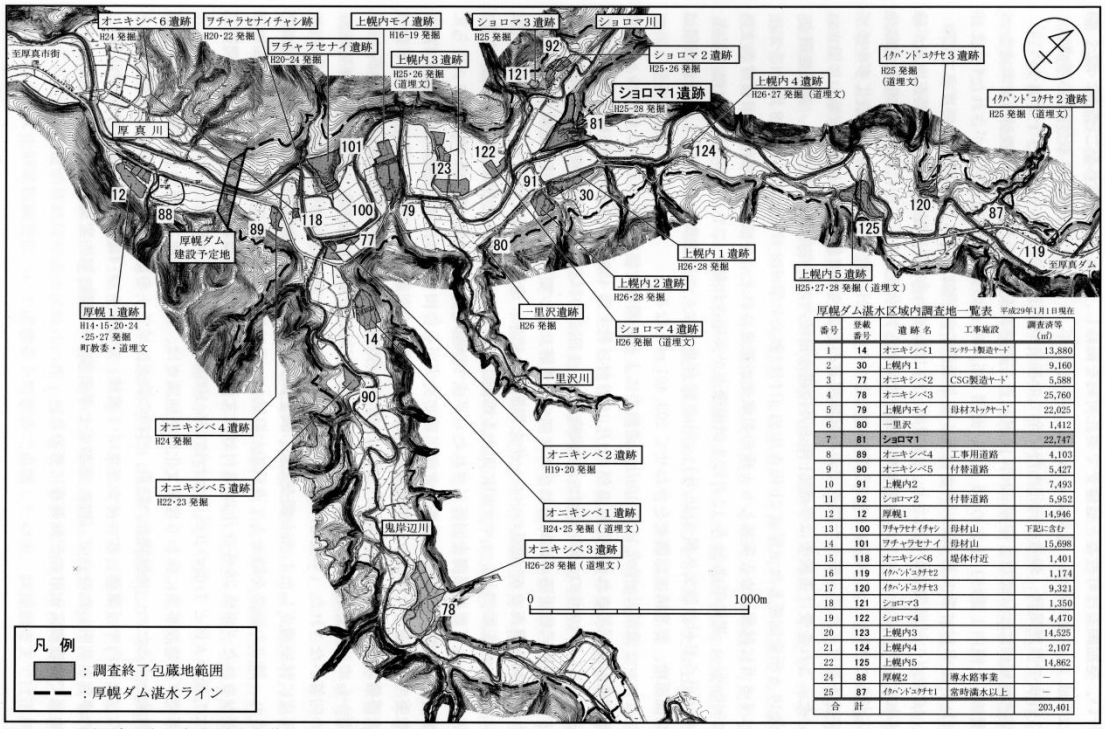


図3　北の中・近世略年表（アイヌ文化振興・推進機構ほか 2001）



厚幌ダム湛水区域内調査地一覧表　平成29年1月1日現在

番号	登載番号	遺跡名	工事施設	調査済等(㎡)
1	14	オニキシベ1	ｺﾝｸﾘｰﾄ製造ﾔｰﾄﾞ	13,880
2	30	上幌内1		9,160
3	77	オニキシベ2	CSG製造ﾔｰﾄﾞ	5,588
4	78	オニキシベ3		25,760
5	79	上幌内モイ	母材ｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞ	22,025
6	80	一里沢		1,412
7	81	ショロマ1		22,747
8	89	オニキシベ4	工事用道路	4,103
9	90	オニキシベ5	付替道路	5,427
10	91	上幌内2		7,493
11	92	ショロマ2	付替道路	5,952
12	12	厚幌1		14,946
13	100	ﾂﾁｬﾗｾﾅｲﾁｬｼ	母材山	下記に含む
14	101	ﾂﾁｬﾗｾﾅｲ	母材山	15,698
15	118	オニキシベ6	堤体付近	1,401
16	119	ｲｸﾊﾟﾝﾄﾞｺｳﾁｾ2		1,174
17	120	ｲｸﾊﾟﾝﾄﾞｺｳﾁｾ3		9,321
18	121	ショロマ3		1,350
19	122	ショロマ4		4,470
20	123	上幌内3		14,525
21	124	上幌内4		2,107
22	125	上幌内5		14,862
24	88	厚幌2	導水路事業	－
25	87	ｲｸﾊﾟﾝﾄﾞｺｳﾁｾ1	常時満水以上	－
合　計				203,401

図Ⅰ-1　厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

図4　厚幌ダム建設関連遺跡群

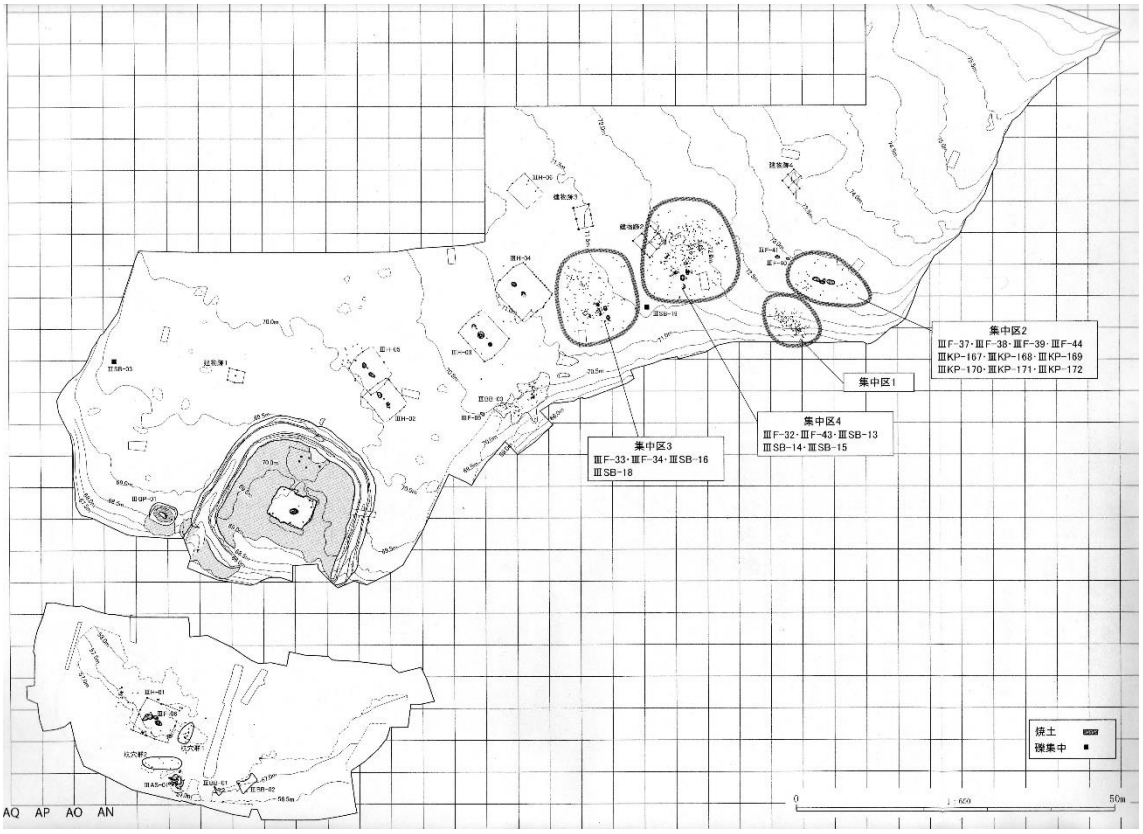


図5　オチャラセナイ遺跡・オチャラセナイチャシ(天方・乾 2013)

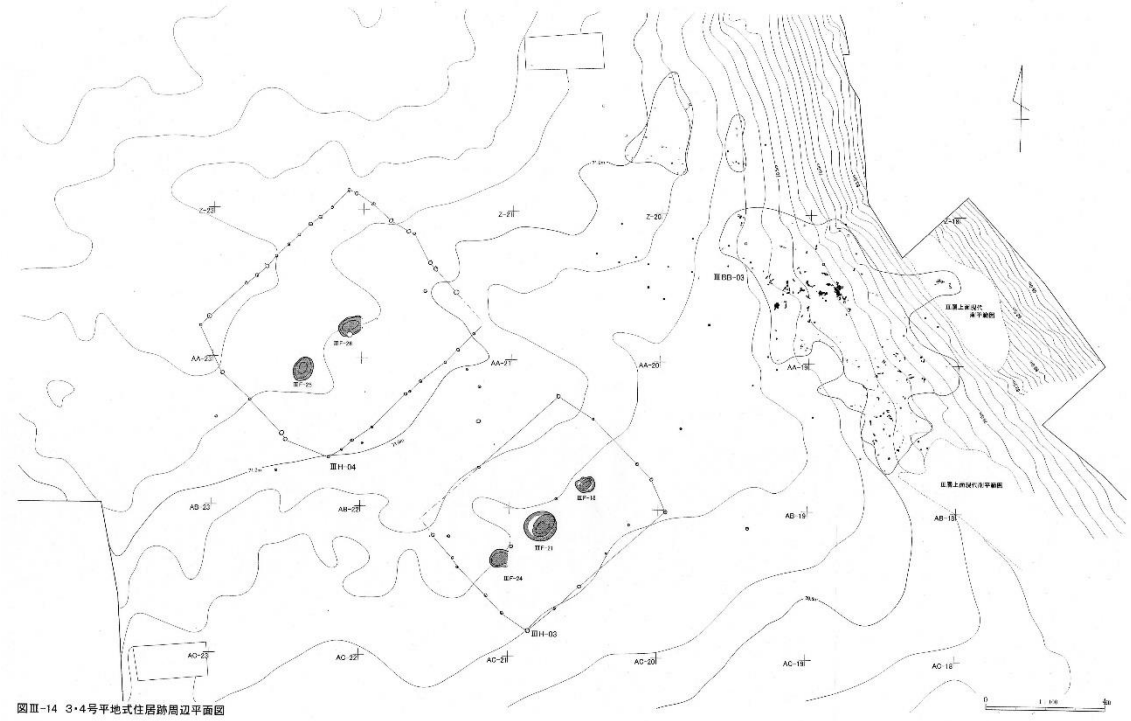


図6 オチャラセナイ遺跡3・4号平地式住居跡(天方・乾 2013)

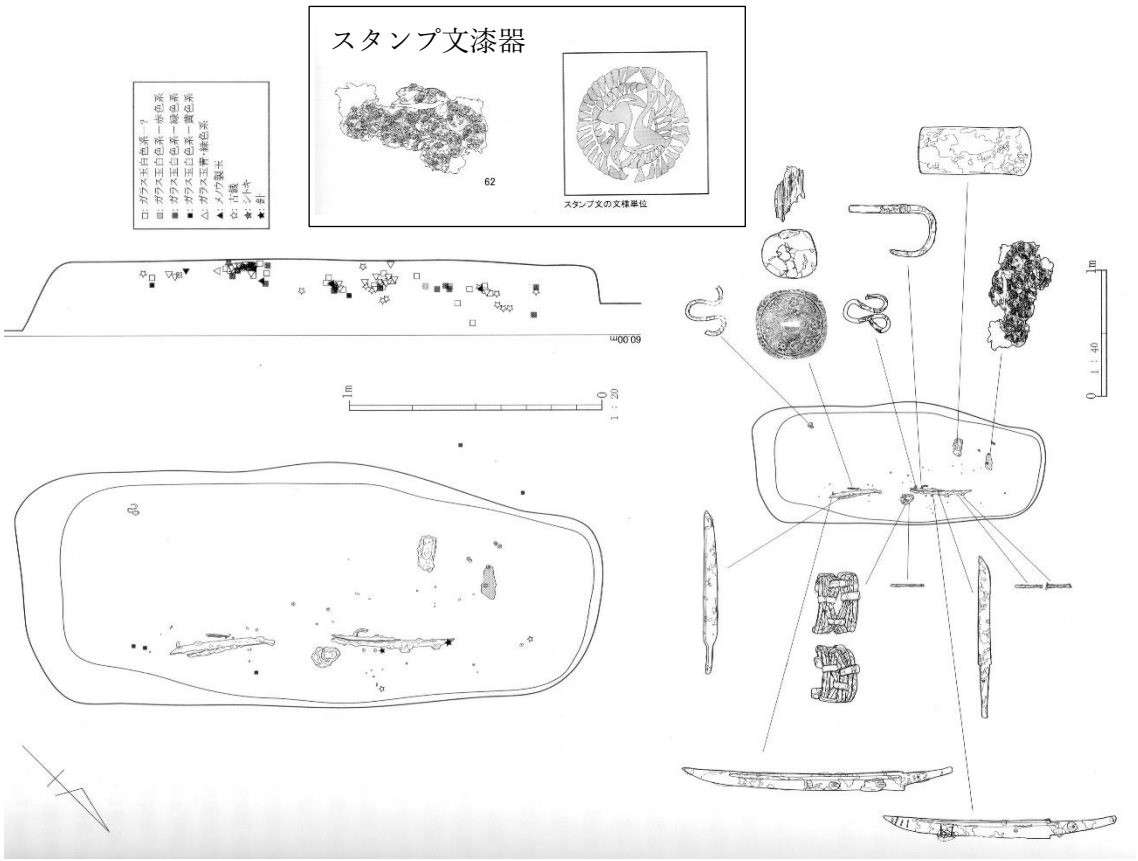
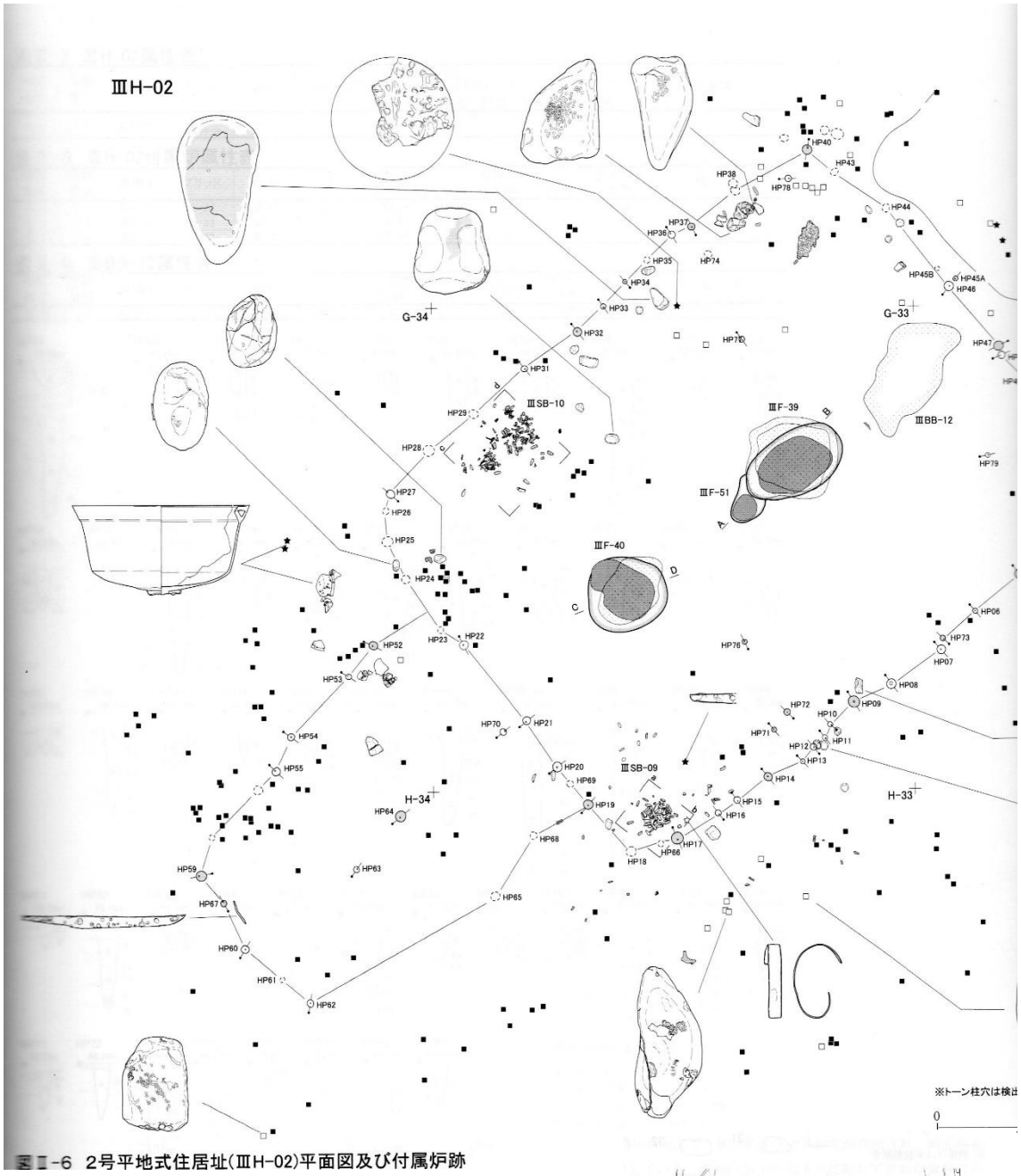


図7 オニキシベ2遺跡1号土坑，出土スタンプ文漆器(天方・乾・小野 2011)



図Ⅱ-6 2号平地式住居址(ⅢH-02)平面図及び付属炉跡

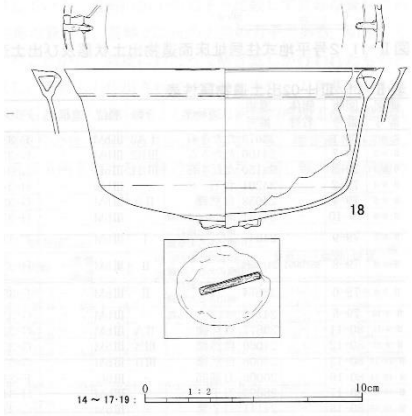
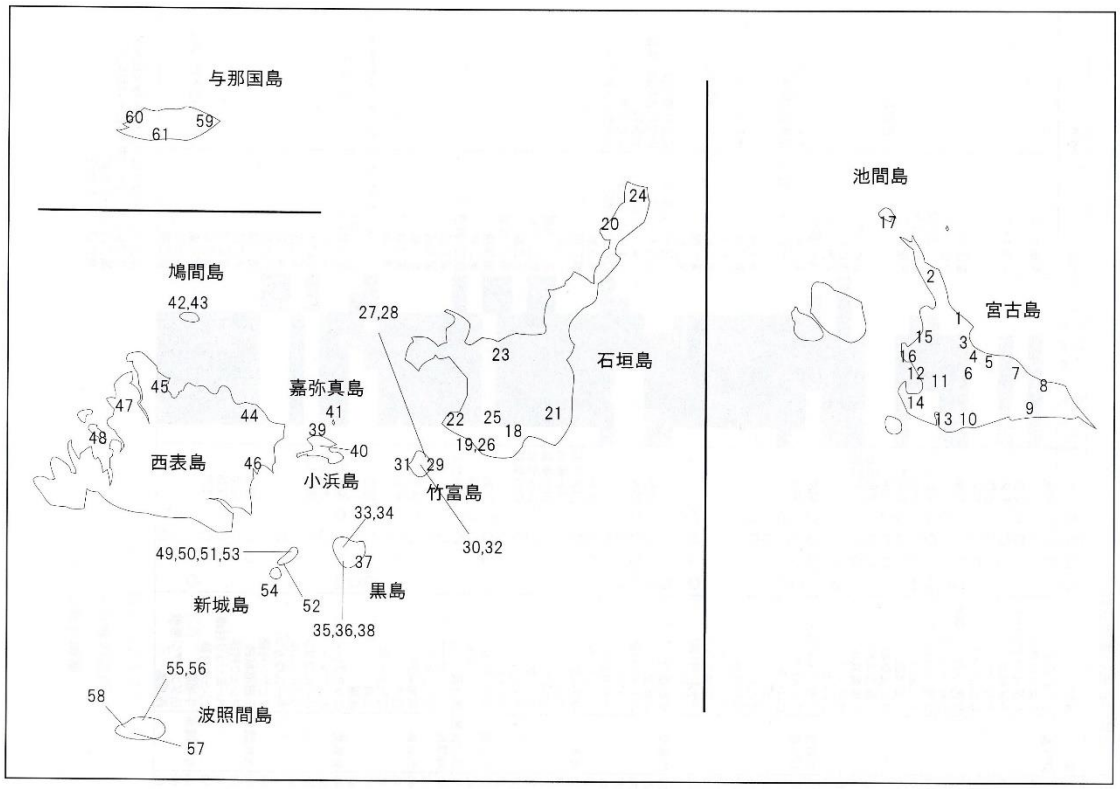


図8 上幌内モイ遺跡2号平地式住居跡
出土内耳鉄鍋(乾・小野 2007)



18:フルストバス遺跡　27・28:新里村遺跡　29:クマーラ・ハナスク遺跡

図9　中世先島のムラ(村木ほか 2020)

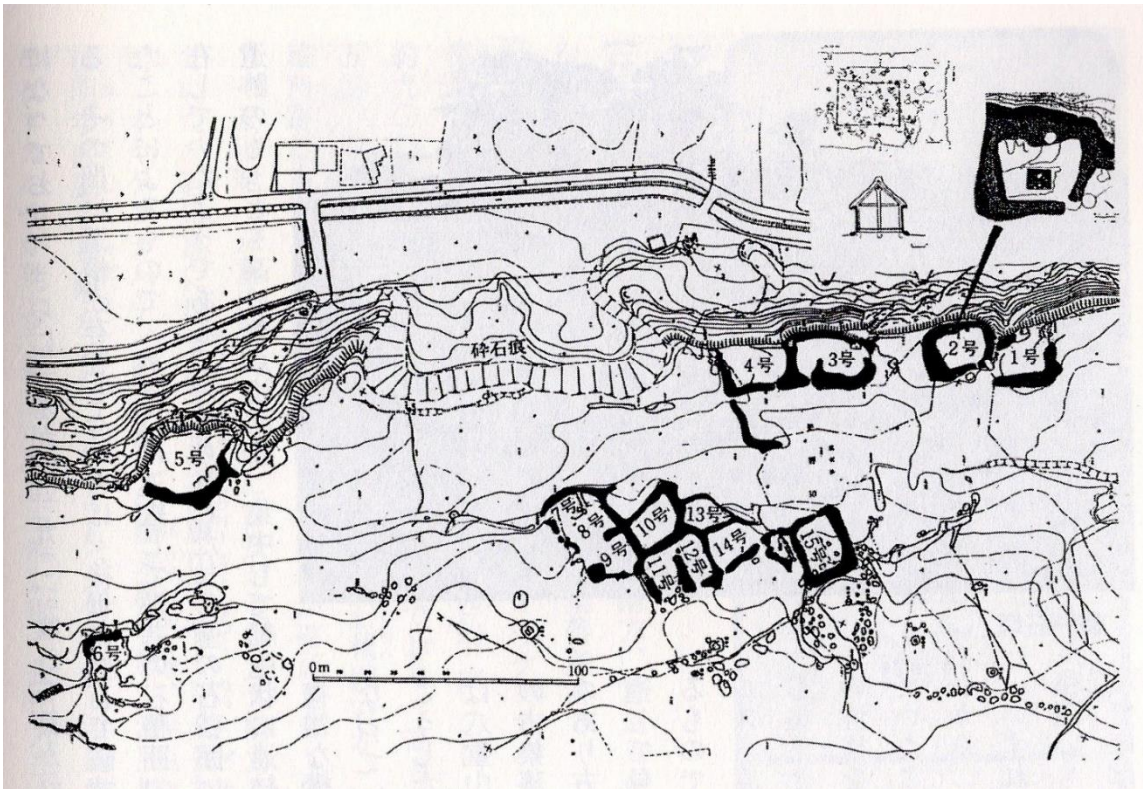


図 10　石垣市フルストバル遺跡(村木ほか 2020)

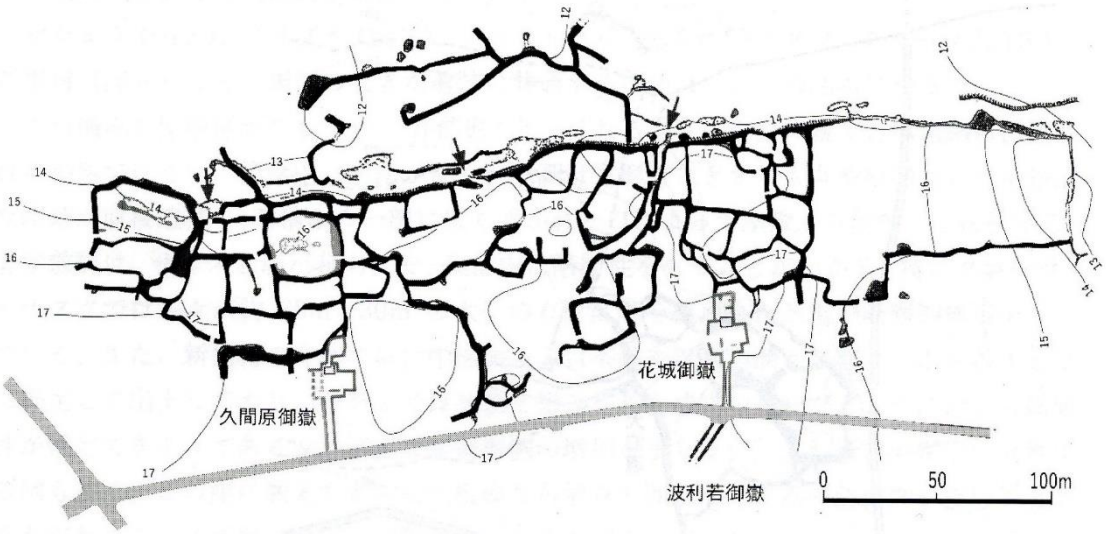


図5　竹富島・クマーラ・ハナスク遺跡模式図

図 11　竹富町クマーラ・ハナスク遺跡(村木ほか 2020)

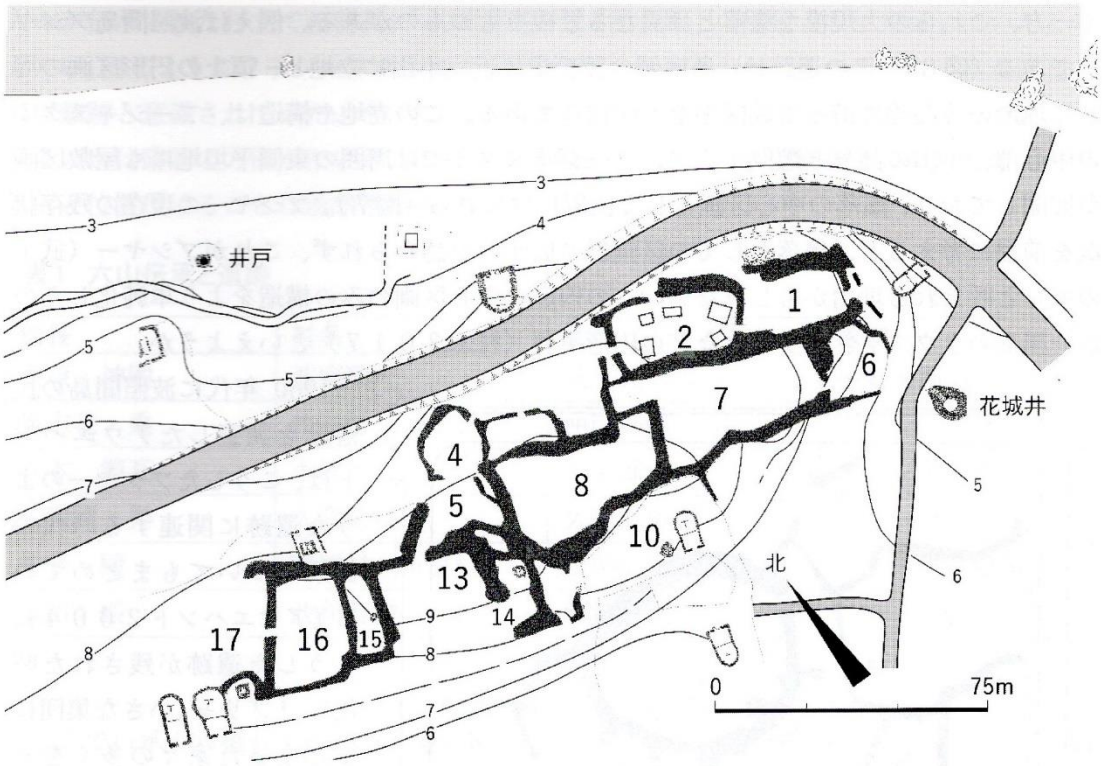


図6　竹富島・新里村遺跡模式図

図 12　竹富町新里村遺跡(村木ほか 2020)

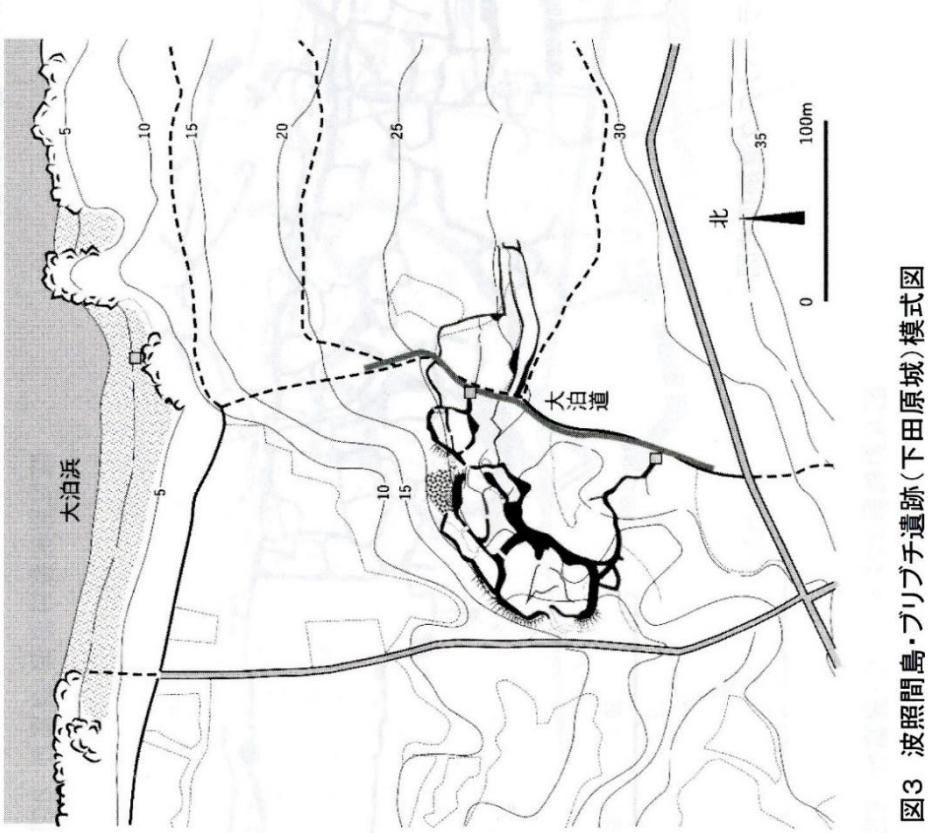


図3　波照間島・プリブチ遺跡（下田原城）模式図

図 13　竹富町波照間島下田原城(村木ほか 2020)

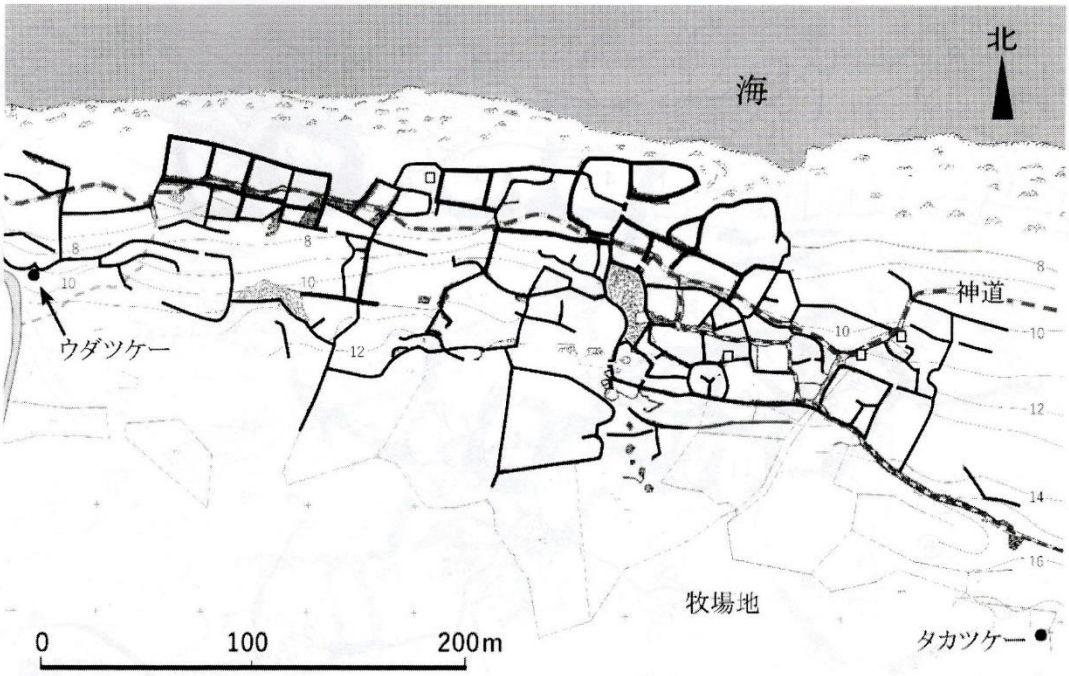


図2　波照間島・マシュク遺跡模式図

図 14　竹富町波照間島マシュク遺跡(村木ほか 2020)

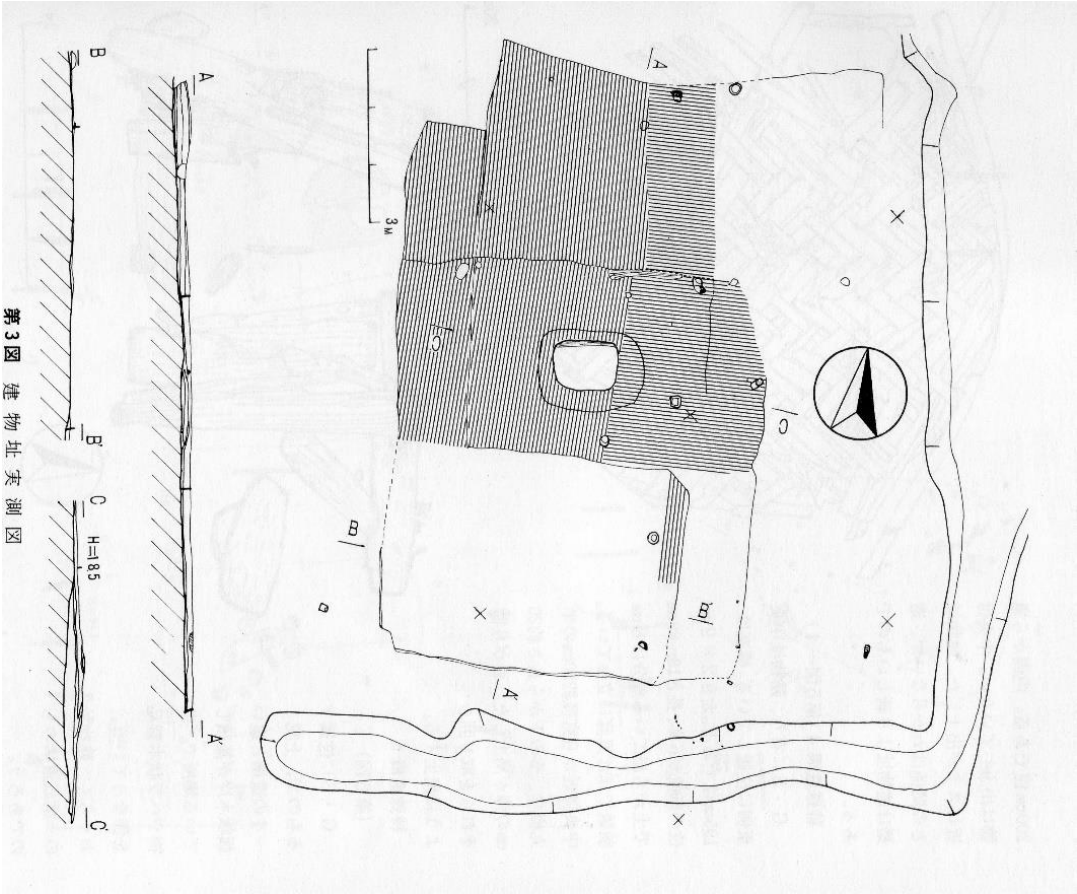


図 15　新潟市馬場屋敷遺跡下層建築址(川上ほか 1983)

図 16　鎌倉市佐助ヶ谷遺跡第 6 期遺構群(斎木ほか 1993)

国指定重要文化財『陸奥国骨寺村絵図』詳細図（複製）　原典は中尊寺蔵

図 17 『陸奥国骨寺村絵図』詳細図（複製）（工藤・大石他 26004）